

## 受賞報告

### 日本作物学会賞(第57回)を受賞

九州沖縄農業研究センターの森田 敏 上席研究員(水田作・園芸研究領域)が「水稻高温登熟障害に関する生理生態学的研究と被害軽減技術の開発」により第57回 日本作物学会賞を受賞しました。この賞は、日本作物学会が作物学に関する学術上顕著な業績を挙げたものに対し、日本作物学会賞を贈りこれを表彰するものです。

近年、水稻の登熟期(米粒にでん粉などが蓄積される時期)が高温となり、米粒の外観品質が低下したり、粒重が低下する高温登熟障害が西日本を中心に多発しています。高温登熟障害の発生程度は栽培条件や品種によって異なることがわかっていますが、どのようにして障害が発生するのかについては不明な点が多くありました。

そこで、森田上席研究員は気温、日射量、施肥量、品種が高温登熟障害に与える影響や要因を解析し、温暖化で予想される夜温の上昇が登熟に及ぼす悪影響とその生理的メカニズムを明らかにしました。これらの知見を参考に高温登熟障害を軽減するための

施肥法「気象対応型栽培法」を提唱するとともに乳心白粒の発生程度を収穫前に判定する玄米断面の測定技術も開発しました。この技術は、共済制度の被害補償にも活用できる装置として実用化されています。



森田上席研究員(左上は受賞メダル)

### 日本草地学会研究奨励賞を受賞

九州沖縄農業研究センターの金子 真 研究員が「低投入な植生と養分管理にもとづく最適な飼料生産に関する研究」により日本草地学会研究奨励賞を受賞しました。本賞は基金創設者の名前を記念して三井賞と称し、日本草地学会正会員または学生会員で将来の研究発展が期待される研究者を表彰するものです。

金子研究員は、投入する資材や労力を少なくして粗飼料を生産することを目的に、無施肥のシバ放牧草地で牧草の刈り取り高さが生産に与える影響、および、無施肥シバ草地でのリンが循環利用される仕組みを解明しました。

さらに、飼料用ダイズの栽培方法として、採草後に再生してくるイタリアンライグラスをリビングマルチとして利用する方法を確立しました。



金子研究員

九州沖縄農業研究センター  
ニュース No.44  
平成25年7月24日発行

編集・発行 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構  
九州沖縄農業研究センター広報普及室  
〒861-1192 熊本県合志市須屋2421  
TEL.096-242-7780,7530 FAX.096-249-1002  
公式ウェブサイト <http://www.naro.affrc.go.jp/karc/>